

政務調査研究視察 報告書 平成19年3月6日提出

| | |
|-------------|---|
| 視 察 日 | 平成19年2月5日（月） |
| 視 察 先 | 福島県 福島市 |
| 視 察 内 容 | 市制施行100周年記念事業・プレ記念事業について |
| 視 察 者 | 澤豊 ・ 永田寛 計 2名 |
| 福 島 市 | <p><市制施行100周年記念事業・プレ記念事業について></p> <p>福島市は、平成19年4月で市制施行100周年を迎える。100周年記念事業はもちろんのこと、100周年を迎えるにあたり、記念事業実施を市民に理解してもらい、また参加意識を高めてもらうために、プレ記念事業を実施している。岡崎市も昨年市制施行90周年を迎え、今後は100周年に向けて各種事業の計画等を企画していくと思うが、その参考として福島市を視察した。</p>  <p style="text-align: right;">▲福島市役所</p> <p>プレ記念事業の内容としては、市民参加型のソフト事業がメイン事業であった。記念サッカー大会や子どもまつりなど各種事業を実施しているが、最も印象的であったのは“わたしたちの故郷100年の歩み”という事業であった。小・中学校の総合学習時間を利用し、地域や学校の100年の歩み等について調査研究をするもので子ども達が地域へ誇りや愛着を持てるようにしたいとのことであった。</p> <p>100周年記念事業では、まず記念キャラクターを定め、これをPRに使用している。事業の内容としては、市民と行政との協働をテーマとして市民参加型の事業展開を行っている。100周年記念事業推進本部は市役所内に設置をされているが、記念事業推進会議は、市民や各種団体を主体に進めており、行政の一方的な事業展開というより、いかに市民をまきこんでいくかということを中心としている。</p> <p>具体的な事業としては、シンボル事業・記念イベント・まちづくり事業・出版事業である。シンボル事業では、観光地の再整備や音楽祭開催。記念イベントでは、科学展や、市内100円バス運行や福島記念競馬などを開催。まちづくり事業では、市民自らが自分たちで考えたまちづくりが出来るように補助金を出して、その活動を市が支援していく。それも新聞広告や、市制特別番組を制作し、広く一般市民に紹介をしている。</p> <p>推進体制としては市民と行政で構成する「実行委員会」及び行政組織である「推進会議」を逐次開催して、市民への周知啓発を図っている。これらは実施年度の4年前から検討委員会をたちあげ基本計画等を策定していたとのこと。</p> |
| | <p>〔感想・岡崎市への反映〕</p> <p>記念事業の基本理念として、身近にある素晴らしいものを再発見し、郷土福島に自信と誇りを持てるように、との方針があり、それを柱として多くのハード、ソフト事業を計画している。記念事業といえば、どうしても行政主体となりがちであるが、福島市はいかに市民をまきこんでいくか、また本事業を機会に郷土である福島市の魅力を再確認してもらおうということを念頭においている。</p> <p>岡崎市も今後100周年を迎えるにあたり数年前から検討会議を開催するなど市民が参加でき、郷土である岡崎の良さを再発見する事業などを計画していくことも重要なのではないかと思う。それにはある程度、強力な推進体制をつくることも大切である。</p> |

政務調査研究視察 報告書 平成19年3月6日提出

| | |
|-------------|--|
| 視 察 日 | 平成19年2月6日（火） |
| 視 察 先 | 宮城県 名取市 |
| 視 察 内 容 | 中心市街地活性化・名取駅周辺整備事業について |
| 視 察 者 | 澤豊 ・ 永田寛 計 2名 |
| 名 取 市 | <p><中心市街地活性化・名取駅周辺整備事業について></p> <p>名取市は人口 68,000 人であるが仙台駅から JR で 15 分というアクセスや仙台空港も所在しており、仙台都市圏の副拠点として発展をしている。</p> <p>今回は、中心市街地活性化と駅周辺整備事業についての視察であるが、名取市は駅周辺整備事業を行いその駅周辺地区を拠点として市街地活性化事業を進めている。</p> <p>岡崎市でも「東岡崎駅交通結節点整備検討会」が設置され、駅周辺整備事業が進められていくところであるが、その参考とするため視察を行った。</p> <p>名取駅周辺整備事業は、「出会い、にぎわい、うるおいあふれる交流広場」を基本コンセプトとし駅前広場などを整備していたが、もっとも印象的であったのは、市民コミュニティプラザの整備であった。これは JR と協議をして、名取駅舎改築時に市民が集まるプラザを駅の連絡通路に設置したものである。市民が各種活動に使用することができ、行政情報サービスも行い、市民窓口となっている。通勤通学時に利用することができるなど市民からの評判もよいとのこと。ロータリーも一般車や、バスタクシーと区分をして車道、歩行者動線に配慮した配置であった。</p> <p>中心市街地活性化は駅周辺整備事業と併せて進めており、駅周辺地区を拠点としていて、ソフト、ハードの両面でまちづくりを行っている。</p> <p>ハード面では、駅周辺整備事業や公共公益の拠点づくり、水や緑とふれあう空間づくりなどである。ソフト面では、空き店舗対策としての商店街マネジメント体制の確立、魅力ある街並みづくりの推進、各種イベントの実施と継続などが挙げられる。</p> <p>一番の課題は、大型店舗の郊外進出であり、空き店舗率も年々増加し現在は 16%を越えているという。駅前歩行者も、休日になると半減するとのこと、通勤通学以外の歩行者がほとんどいないという現状から、休日でも買い物などで駅周辺の中心市街地に人が集まることできるように各種事業を展開しているとのことである。そういった事情からも、駅周辺整備事業を中心市街地活性化事業のメインとしているとのことである。</p> |
| | <p>〔感想・岡崎市への反映〕</p> <p>名取市では、上記事業を推進するために、庁内で横断的な取り組みが十分に図れるように連絡調整機能を持つ場「庁内連絡調整会議」を設置している。また地域住民が参加できるように、行政としてまちづくりグループへの支援や情報公開などを推進している。岡崎市でも既に組織しているが、中心市街地活性化について、さらなる強力な推進体制・組織のあり方について検討してもよいのではと思う。</p> <p>また、岡崎市でも現在名鉄東岡崎駅前整備計画が始まったが、名鉄などと協議をして、駅舎の中に人が集まれる空間を設置するのもひとつの手段であると思われる。岡崎市では中心市街地である康生地区と駅とは若干離れているため名取市とは背景が少し異なるが、商店街を活性化させるには地元と協力が必須の要件であるので、新図書館建設を機に更なる補助事業を展開してもよいと思われる。</p> |



▲名取駅

政務調査研究視察 報告書

平成19年3月6日提出

| | |
|-------------|---|
| 視 察 日 | 平成19年2月7日（水） |
| 視 察 先 | 岩手県 盛岡市 |
| 視 察 内 容 | 盛岡ブランドの開発について |
| 視 察 者 | 澤 豊 ・ 永 田 寛 計 2 名 |
| 盛 岡 市 | <p><盛岡ブランドの開発について></p> <p>盛岡市は人口が約 29 万人、東北新幹線・秋田新幹線などが通る北東北の玄関口であり、現在中核市へ移行をめざしている。歴史ある文化・食などの資源を生かした盛岡ブランドを確立し観光客や企業誘致に向けて情報を発信している。</p> <p>岡崎市での産業振興の参考とするため視察を行った。</p> <div style="text-align: right;">  <p>▲ブランドマーク</p> </div> <p>現代の社会では住民から自治体が選択される時代といわれている。そこで、盛岡市では玉山村との合併を機に、新盛岡市が多くの人々から支持され、「住みたいまち」「訪れたいまち」として選ばれるために、盛岡の特色を魅力ある価値として明確にする手段としてブランド開発を計画したとのこと。</p> <p>まず、市内の商工観光部に「ブランド推進室」を設置し、ブランド推進の企画や具体的な方針づくり、体制づくりなどを行っている。特に力を入れているプロジェクトが、「まちなみ景観保存事業」と「メイドイン盛岡認証制度」の2つである。</p> <p>景観保存事業では、歴史建造物が多く存在している地域性を生かし、見学施設の整備資料館の活用、修復などを行い、主にハード面の事業である。</p> <p>認証制度では、「麺」「南部鉄器」「盛岡りんご」の3つを核とした認証制度の立ち上げや、宣伝活動、ブランド力向上に取り組んでいた。</p> <p>またブランドづくりにあたって、市民意識の共有化を図るため、市民会議を設置して市民参加による事業を展開している。商工会議所とも連携し、盛岡ファンクラブを結成して、市内各地・市民各層に浸透するよう努めている。また、フラッグ・ステッカーを市内商店街各地に配布し、広報宣伝や市民意識の共有化を図っている。</p> <p>来年度にはDVDの作成や、テレビ放送や東京での盛岡デーの開催、市民ファンドの開設などを予定しているという。また盛岡の魅力について、市民から意見やアイデアを募集するなどして更なるブランドの浸透に向けて事業を進めていくとのことである。岡崎市も歴史ある文化財や産業があるので、盛岡市の取り組みは大変参考になった。</p> |
| | <p>〔感想・岡崎市への反映〕</p> <p>盛岡市では、合併を機に全国へ盛岡ブランドを発信していこうと市役所内にブランド推進室を立ち上げ、商工会議所と連携をして事業展開を行っている。とにかく行政側に徹底して盛岡ブランドをアピールするという意欲があることに感心した。主にソフト面の事業であるが、次々に新しい主要事業を立ち上げている。予算は推進費で約 4 千万であるが限られた予算の中でアイデアを出している感を受けた。</p> <p>岡崎市にも多くの観光・産業資源がある。せっかく去年の純情きらり効果で岡崎市が注目をされてきているので、一過性で終わるのではもったいないと感じる。盛岡市のようにブランド開発とまではいかななくても、行政が主導となって何か地域産業を全国へ発信できるような事業を展開して、観光産業資源を活かしていてもよいのでは。</p> |